

「化石の卒業制作(6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

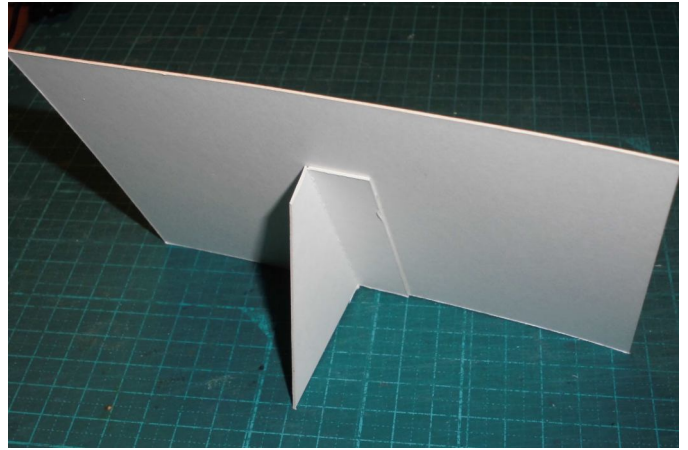
「理科卒業制作」に使う、化石の実物とレプリカ、それに容器は完璧になった。あとは「台紙」である。化石をそのまま子どもたちに渡して「終わりー！」では卒業制作にはならない。



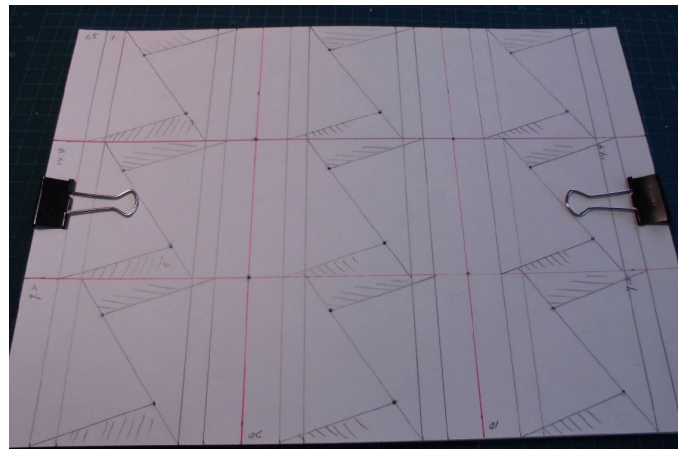
まずは「試作品」だ。厚紙(板目表紙)を、はがきサイズより少し大きく切ったものを用意した。そこに化石とラベルを貼ってみた。この段階では、まだ三葉虫のレプリカは完成していなかったもので、3種類だけだ。このままだとただの「カード」で、「飾っておく」という感じにはならない。子どもたちが持ち帰って、机やピアノの上に飾ってくれないと面白くない。



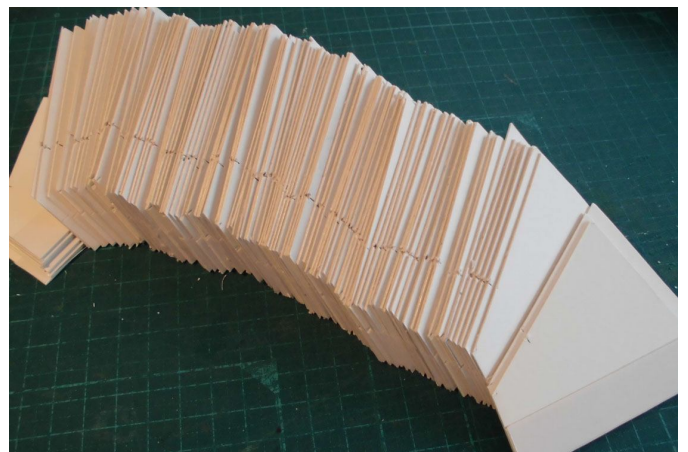
このような金具も市販されている。喫茶店のメニューを立てるようなものだ。しかしどうしても2個必要で、値段も1個100円近くする。100円?! あったら、三葉虫の模型を50個以上作れる。



迷わず「ボード立て」を自作することにした。厚紙の裏に、写真のような「衝立て」を貼れば良いのだ。しかし、これを自作するのは、意外にも大変だった。



いろいろ考えた末、写真のように線をひいて切ると、一枚の板目紙から18枚の衝立てができることがわかった。切っただけではだめで、折れ目のカッター筋や、両面テープも貼っておく必要がある。そのへんは、授業で子どもたちにさせても良いのだが、何しろ突然授業時数が減ったので、短時間でできるように用意しておく必要があったのだ。



これができあがった「ボード立て」実は、見えない部品作りのこの作業に、一番時間がかかった。